

令和3年度学校自己評価システムシート(県立越谷北高等学校)

目指す学校像 高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルリーダーを育成する。

重点目標 1 すべての教育活動における「主体的・対話的で深い学び」によって、一人一人の生徒の主体性を伸長する
2 理数教育やSSHの取組の充実と「リベラルアーツ」教育の実現によって、グローバル人材としての資質を高める
3 地域と連携し、高い進路目標を掲げ、自己実現を目指す学校の情報を発信し、学校の評価を高める

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割以上)
	C 変化の兆し(4割以上)
	D 不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

年度目標				年度評価(月 日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は進んできている。 ○ICTを活用した授業を実施する教員は増加している。 ○生徒の主体性を伸ばす指導に取り組んでいる。 ○組織的な生徒指導体制は整っている。 【課題】 ①受験知識偏重から視野の拡大や教養の習得へ意識を変化させた授業改善 ②「深い学び」に向けた指導の工夫・改善 ③「部活動方針」をふまえて、部活動と勉強の両立に向けた計画及び指導の工夫・改善 ④生徒が自ら考え、自律的な生活者となるような指導の工夫・改善	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業とICTの融合	a ICTの効果的な活用とデータの共有化の推進	ア ICTを活用する授業、教材等のデータの共有は増加したか。 イ 協働学習など「思考力・判断力・表現力」向上のための授業実践は増加したか。 ウ B YODを活用した授業が実践されたか。			
			b アクティブラーニングの拡充				
			c ハイブリッド型の実践				
			②「リベラルアーツ」教育を意識した授業の実践	ア 生徒の授業への期待が、受験知識偏重から視野の拡大や教養の習得へ変化したか。 イ 主体的に深く掘り下げて学んだ経験をした生徒は増加したか。 ウ 深い学びを意識した指導は実践されたか。			
2	【現状】 ○SSH事業は4年目を迎える。 ○クロスカリキュラムの指導案数・延べ実施クラスともに増加しつつある。 ○「総合的な探究の時間」は2年目を迎え完成年度となる。 【課題】 ①理科科の特色を生かしたSSH事業の充実、全校を挙げてSSH事業に取り組む体制づくりの推進 ②グローバル人材としての資質を高める取組の継続と拡充 ③課題研究や2年間を通しての「総合的な探究の時間」の計画的な実施と発表の充実 ④観点別評価等学習評価の改善	①SSHの取組の拡充	a SSH事業についての情報提供や取組の拡充	ア 生徒・保護者アンケートにおける評価(肯定的評価 3.0以上)は向上したか。 イ 生徒研究報告会は適切に実施できたか。 ウ クロスカリキュラムのシラバスと指導案の作成、授業実践は増加したか。 エ 全校生徒がクロスカリキュラムがSSHの研究開発であることを意識して取り組んだか。 オ クロスカリキュラムを通して学びが広がったと感じた生徒は増加したか。			
			b クロスカリキュラムの適切なテーマ選定				
			c 探究学習とのコラボで全校体制の構築				
			②グローバル人材としての資質の育成	ア 海外研修の募集・選考・事前指導から実施、事後指導まで適切に実施されたか。 イ オンラインを活用した海外研修が実施されたか。 ウ カナダ派遣への参加希望生徒、エンパワメントプログラム等の他のプログラムへの参加生徒は増加したか。 エ 英語によるプレゼンテーションや効果的なスライド作成などプレゼンテーション力は向上したか。			
3	【現状】 ○受験を意識している生徒が多い。 ○90%程度の生徒が国立大学進学希望である。 ○ICTを活用した情報発信が行われている。 【課題】 ①「卒業時までどのような資質を身に付けさせるか」についての認識の共有 ②キャリアを考えた指導と高い進路希望を実現させる指導の両立 ③新しくスタートした大学入学共通テストに対応した指導の工夫改善 ④HPの充実等による適時・適切な情報提供 ⑤働き方改革をふまえて、重点化した小中学校や地域との交流の実施	①キャリアを考えた指導と高い進路希望を実現させる指導の両立	a ティプロマポリシーについての認識の共有	ア 「卒業時までどのような資質を身に付けさせるか」について教職員・生徒・保護者の共通認識はできたか。 イ 受験対策だけでなく進路指導(キャリア教育)はできたか。			
			b キャリア(進路目的)を考えさせる指導の充実				
			②受験対策指導・生徒個別指導や保護者面談は適時・適切に実施できたか。	ア 受験対策指導・生徒個別指導や保護者面談は適時・適切に実施できたか。 イ 高い進路希望を持たせ続ける指導の工夫改善はできたか。 ウ 進路について生徒自身で能動的に探究できたか。 エ 大学入学共通テストに対応した指導の工夫改善はできたか。 オ 大学入学共通テスト5教科受験者の割合は増加したか。			
			③本校の教育活動についての情報発信の充実	ア HP等による情報発信の充実 イ 生徒募集にICTを有効活用できたか。 ウ 中学生の本校に対する評価は高まり、本校志望者数は増加したか。			

学校関係者評価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

【教】教員アンケート、【保】保護者アンケート、【生】生徒アンケートにおける回答率を示す